

## お盆のおはなし

お釈迦様のお弟子さんに、目蓮むれんという神通力の持ち主が  
おりました。神通力とは、昔昔のことや、未来のことや、  
他人の心の中のこと、亡くなった人々が今どこで何をして  
いるかということなどを見ることのできる力なのです。

目蓮むれんは大層たまたま親孝行者でしたので、亡くなったお母さんの  
ことを思い出して、会いたくて神通力で極楽世界を探しま  
したが隅々まで何回も探しましたが、お母さんはどこにも  
見当りませんでした。それで、こんどは餓鬼がきの世界を探し  
ました。「あーっ お母さんだ！」

食べ物も食べられないで、骨と皮ばかりにやせほそって、  
ふらふらよろよろしながら苦しんでいるではありません  
か。「あー、可哀そうに」と食物や水を持って目蓮むれんは飛ん  
でゆき「さあーお母さん、食べて下さい！」とお母さんの  
手に：お母さんは手を伸ばして受け取ろうとすると「あー  
っ」食べ物はお母さんの手の上で火となって燃えて、すみ  
なくなってしまいました。二回も、三回も、四回もみんな燃  
えてしまいました。

この悲しい出来事を、涙ながらにお釈迦様に目蓮はお話  
しました。するとお釈迦様は「あなたのお母さんは、生き  
ている時には欲張り者で、自分さえうまい物を食べれば他  
人などは、どうなってもかまわない、しらんぶりの強欲な  
人だったから、その報いが今になって餓鬼がきの世界で苦しめ  
られているのです。だから、あなたが お母さんの替りに  
なって良い事を世の中の人々のためにしてあげなさい。

その喜びの功德が廻り廻ってお母さんを極楽世界へ生れ  
変らせることができることでしょう」

「ハイ、わかりました。」目蓮むれんは七月十五日から、国中の  
お坊さんや沢山の人々を自分の家に招待をして、どんど  
飲んで、食べて下さいと大ごちそうを一週間もつづけまし  
た。ごちそうになった沢山の人は、手を振り足をなら  
して、歌い、踊りました。

これがお盆の始まりです。

人々の喜びは、餓鬼がきの世界で苦しむお母さんを極楽世界  
へ生れ変らせました。

お盆は、亡くなったご先祖様の魂たましいを盆ひしにお招きして、  
ごちそうし語り合い、なつかしむ行事なのです。